

AJ

AQUA
JOURNAL

vol.

352

Aqua Design Amano
information magazine
Feb. 2025 100YEN



BELOW WATER

OLIVER LUCANUS — Photo & Text

オリバー・ルカヌスが贈る水中世界 Vol.10

氾濫原の竹林

雨季の終わり、氾濫原の水はアラグアイア川へと引きはじめる。小さく浅い池が風景に点在し、そこには残った幼魚のキクラ・ピクティ、シクラソマ、そしてヘミグラムス・ディアゴナスなどのカラシン科の大群が棲息する。フトイの仲間と思われる草は池の淵に繁茂し、魚に隠れ場所を提供する。いくつかの池は乾季に干上がるが、水生および岸辺植物の種子は再びこの地が雨で目覚めるまで生き延びる。

〔撮影地〕
アラグアイア川上流域

〔生物〕
Hemigrammus diognus

OLIVER LUCANUS

オリバー・ルカヌス (54)

ドイツ、バイエルン州生まれ。30年以上に渡り、世界中で魚の棲息環境を撮影し続けている。『Xingu Below Water』など写真集を発刊。カナダ、モントリオール在住。IEPA会員。

CREATOR WORKS

Yusuke Homma
NATURE AQUARIUM W7,060 x D1,260 x H1,400 (mm)



2024年9月5日撮影

©AQUA DESIGN AMANO

【風薫る石景】ネイチャーアクアリウム・石組レイアウトの王道とも言えるスタイルの水景。前回の撮影時には上手くなじんでいなかったブリクサ・アウベルティレッドが混栽した他の水草とともに八海石の強さを適度にやわらげ、バランスの取れた状態となった。また、当初はリシアが混じっていた下草は、現在はグロッソスティグマで構成している。



2023年7月12日撮影

CREATOR WORKS

Naru Uchida
NATURE AQUARIUM W4,000 x D1,000 x H1,350 (mm)



2024年9月5日撮影

©AQUA DESIGN AMANO

〔水底の紅葉〕日本の美しい紅葉をイメージして制作したレイアウトで、赤系有茎草を中心とした群生美がよりいっそう楽しめる水景に仕上がっている。中景のミクロソラムは隆盛を極め、濃緑のジャングルのようでもある。また主役となるレインボーフィッシュは散りゆく紅葉のように舞い泳ぎ、狙い通りの演出効果を果たしてくれている。



2023年7月12日撮影

CREATOR WORKS

Yusuke Homma
NATURE AQUARIUM W4,060 x D1,260 x H1,400 (mm)



2024年9月5日撮影

©AQUA DESIGN AMANO

〔光と睡蓮の庭〕 スイレンの浮葉を下から見ることで、水中へ潜ったかのような没入感がこのレイアウトの醍醐味になっているが、背景の水草の密度が増したことで水面のオープンスペースがいっそう強調されるようになった。なお、手前の化粧砂となるコロラドサンドにはヘーゼルグラベル2種類を追加し、ディテールの表現によりこだわった。



2023年7月12日撮影

CREATOR WORKS

Yusuke Homma

PALUDARIUM W4,000 x D1,000 x H1,200 (mm)



2024年9月5日撮影

©AQUA DESIGN AMANO

〔悠久の森〕制作から1年半が経過し、胞子で殖えたシダや苔が倒木を覆い幽玄な雰囲気がいよいよ始まった。作為的な管理は極力避けたために、生長する過程において淘汰された植物もあるが、それによって植物自身が形成する自然な景観が生まれている。実際の展示では霧と光芒の演出システムを導入しているが、本物の自然の光景のようだと来館者から好評を得ている。



2023年7月12日撮影

MINI NA #10

Mini NATURE AQUARIUM
MAINTENANCE GUIDE

DATA

撮影日 2024年12月6日
水槽 キューブガーデン W150×D150×H220 (mm)
照明 マグネットライト G スリム (1日8時間30分点灯)
ろ過 ストリームポンプ・ミニ
素材 ブランチウッド・
底床 アクアソイル・アマゾン Ver.2、バクター R
CO₂ CO₂システム74-DA、ベルグラス・ミニで3秒に1滴
添加剤 ミニNAリキッド
換水 1週間に1度 1/2
水質 水温25℃ pH:6.2 TH:50mg/L
その他 メタルカパー・ミニ、メタルベース・ミニ



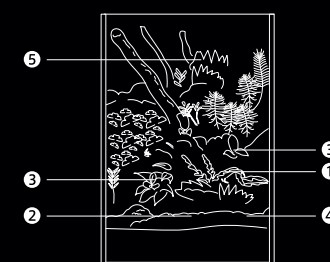
Love is touch, touch is love.

一昔、とは言っても30年も前のことになるが、本誌Vol.3 (1994年8月発行) で「掌中水景」という特集を組んだことがあった。水量1〜8Lほどの超小型水槽でネイチャーアクアリウムを楽しむという内容で天野 尚ならではのギミックと掌中水景というキャッチーなタイトルと相まって、当時、賛否両論のちょっとした話題になったと記憶している。その特集ではフィルターを設置せずに管理する水たまりのような水景に対し、人の手によって注意深くつくられた人工的な世界であり、大袈裟に言うならば一瞬たりとも目を離すことのできない脆い世界だと紹介している。しかしながら、この種のコンセプト、すなわち微生物や植物の力に依存した極力育成器具を使用しないメソッドに魅力を感じるの



超小型水槽ゆえに生き物の導入には注意を払いたい。紅白のエビで新春を祝う(笑)。

もまた事実である。それは生き物の働き、生態系の仕組みを水槽内に取り込むという生物学的好奇心の刺激に加え、水槽内に人工的につくられた「自然」が、自分の手間と愛情によって成立しているという満足感や喜びがあるからではないだろうか。世の中がスマート化すればするほど、こうした本能的な欲求が高まってくると思う。それは、多くの趣味の根底に、手間暇をかけていじりたいという欲求があるからに違いない。いじることは楽しいのであって面倒とは少し違う。しかしながら、本来は楽しいはずなのに、水草の管理というと面倒くさいと思われがちのような気がする。部屋の中に居ながらにして水や土、水草に触れ、しかも美しい水景を手に入れることができるのだから贅沢だ。2025年新春、そんな水草の世界に興味があればぜひミニNAで始めてみて欲しい。……そんなとき、ADAを使うといい。



植物 ①ハイグロフィラ・ピンナティフィダ(BIO)※
②ニューラージパールグラス(BIO)※
③アマビアス・ナナ・フチ(BIO)※
④パールグラス(BIO)※
⑤ロタラ・マクランドラ(BIO)※

生体 チェリーシュリンプ、レッドビーシュリンプ

※はADA生体製品ラインナップです。

New Style Indoor Green

Style
10

DOOAで提案するガラスケースで主に熱帯植物の育成を楽しむスタイルをさまざまな作例とともに紹介。日々の生活の楽しみとして取り入れてみては。



DATA

CASE
GLASS POT MARU 95

PLANT
デンドロビウム・リケナストラム
プレミアムモス

LIGHTING
マグネットライト G スリム
6段階中4～5

SUBSTRATE
トロピカルリバーソイル

MATERIAL
KUMU ブラックラバストーン

極小型のデンドロビウムで、多肉質の葉姿が珍奇。乾湿のメリハリが大切なのは、ランの仲間共通の育成ポイントとなる。可憐な花を咲かす様子に愛しさを感じる。

DATA

CASE
GLASS POT MARU 95

PLANT
ダバリア・トリコマノイデス
プセファランドラ・ブラウニーゴースト
コツボゴケ
ヤマゴケ

LIGHTING
マグネットライト G スリム
6段階中3～4

SUBSTRATE
トロピカルリバーサンド

MATERIAL
KUMU ブラックラバストーン

繊細な葉姿が魅力のダバリアは、特徴的なふさふさとした気根で、気中の水分も吸収するため、石などに着生させるといい。ここでは苔やプセファランドラとともに小さな景観を楽しんでみた。



DATA

CASE
GLASS POT MARU 95

PLANT
プセファランドラ・シンタン
プレミアムモス

LIGHTING
マグネットライト G スリム
6段階中3～4

SUBSTRATE
ジャングルソイル

MATERIAL
KUMU リュウオウストーン

リュウオウストーンにプセファランドラを一株挟んだだけでも、小さな景観ができて上がる。小型のプセファランドラは、MARU 95でのケース栽培に最適な種とも言え、コレクションするのも楽しい。

DATA

CASE
GLASS POT MARU 95

PLANT
シストーチス・ジャワニカ
プレミアムモス
クジャクゴケ

LIGHTING
マグネットライト G スリム
6段階中3～4

SUBSTRATE
ジャングルソイル
ジャングルベース

MATERIAL
KUMU ホーンウッドチップ

煌びやかなジュエルオーキッドへの関心が一段落するころに、気になり始めるのがこうした地味なシストーチスの仲間である。林床に自生するイメージをホーンウッドチップと苔で表現した。



IAPLC CREATOR'S FILE #20 Qi Lin

世界トップレベルの水草レイアウトコンテストである「IAPLC」。このクリエイターズファイルでは、その上位入賞者にインタビューを行い、上達の秘訣や水草レイアウトに対するこだわりを紹介いたします。

チー リンさんのSNSアカウント



私が水草レイアウトを続ける理由は その愛情と情熱に基づいています

Q 出品作品の コンセプトをお聞かせください。

今年の作品について、私が最初に考えたのは、構図の中で水中の生態系をいかに再現するかでした。植物、石、そして木が絡み合いながら形成される野性味あふれる自然界には、非常に強い生命の魅力が宿っています。この自然感こそ、水草レイアウトが持つべき重要な要素だと考えています。しかし、水景をより魅力的にするためには、構図の段階で遠近感の対比効果を綿密に考える必要がありました。自然と野性が融合するコンセプトを前提として、最初のレイアウトの構築を始めました。

Q 一番工夫した部分は どの箇所ですか？

レイアウトの過程において、初期の構図は確かに第一印象を左右しますが、構図と植栽の組み合わせを考えることに最も時間を要しました。また、それは私が意識しているところでもあります。優れた作品にするには、精緻な素材だけでは十分でなく、水草が適切に生長できる条件のもと、よく観察してトリミングを行い、その植物が望ましい姿を発揮するように導く必要があります。

Q 構図を組む上でどんなことを 意識しましたか？

構図をつくり上げる際には、自然感を損なわない範囲で、できる限り「線と面」を強調しています。素材と水草が互いにつながり合うことで生まれる線の流れに加え、適切な影の面積を組み合わせることで、動感と立体感の重なりが生まれます。効果的なコントラストや

線のインパクトは、見る人を直感的に引きつけ、印象に残るものを生み出してくれます。

Q 植栽のポイントを 教えてください。

今回選んだ水草の種類は、あまり赤系水草は使用せず、深い緑で野性的な形状を持つものを中心に選びました。前景には広めのスペースを残し、細葉の水草を混ぜながら植栽し、石の間から植物が力強く生長する生命力を表現しました。これにより、景観の左右のレイアウトに広がりを持たせ、モスやシダ類を用いて明暗のバランスも表現しています。背景では、遠近感を出すために葉が細かい水草を使用しています。

Q 爽やかな溪流を感じさせますが 参考にした風景はありますか？

普段から私はADAvieの動画をよく見ており、その中でも本間 裕介氏が新潟で行ったフィールドワーク(三面川)の映像が印象深く残っています。動画には、溪流と陸地がつながり、続いていく景色が映し出され、とても清らかで生命力に満ちていました。また、数々の植物が生い茂る野性的な雰囲気も加わり、まさに常に憧れている感覚がそこにありました。この映像が、今回の作品を創造する際のインスピレーションの源になりました。

Q メンテナンスにおいて 意識していた箇所はありますか？

メンテナンスに重要だと考えるのはトリミングです。適切な生長スペースを確保し、適切な高さでトリミングを行うことが求められます。これにより、水草の健康を保ちながら、構図部分が過度に隠れないようにしています。



【息づく原野】 Aquarium Size W1,200×D600×H450(mm)

水 草：サジタリア・スプラータ/エキノドルス・テネルス/ニューラージパールグラス/プレミアムモス/ミクロソラム・トラIDENT/ニューパールグラス/

ボルビティス・ヒュデロツティ/アヌビアス・ナナ/コブラグラス/ショートヘアーグラス/クリプトコリネ・パルバ/プセファランドラ sp. /ミソハコベノグリーンロタラ/ウィローモス/ウィーピングモス
魚 種：カージナルテトラ/サイアミーズフライングフォックス

これはまさに天野 尚先生が私たちに教えてくださった技術です。この技法によって、景観全体のバランスを保ちつつ、自然の美しさを引き出すことができたと考えています。

Q IAPLC に初めて参加した きっかけはありますか？

2015年のIAPLCの優れた作品に非常に大きな影響を受けました。その頃から自分もコンテストに参加してみたいという思いを抱くようになり、それ以降毎年IAPLCを注目し、準備が整うのを待ち、ようやく2021年に初めての作品を応募しました。

Q IAPLC 2024に3位へと躍進した きっかけはありますか？

私が水草レイアウトを続ける理由は、その愛情と情熱に基づいています。ADAvieのビデオを観るとき、「自然から学ぶ」という考え方を教えてもらいました。普段から私は他の愛好家とも交流を続けており、マレーシアのジョシュ・シム氏や「CAA 中国造景師連盟」のメンバーと意見を交わしています。彼らとのディスカッションを通じ、多くを学び、私の創作の

幅もしだいに広がっていったと思います。

Q 綺麗に撮影するポイントがあれば 教えてください。

まだ勉強中ですので、撮影の前にはできる限り水景の状態を整えることしかできません。しかし、撮影中に生じる影を活かすことを意識しました。なぜなら、自然界にも暗い部分が存在しており、それを取り入れることで、明暗のコントラストを際立たせ、景観を立体的にできるからです。

Q 中国の水草レイアウト事情を お聞かせください。

2015年に中国の水草レイアウトは爆発的な成長をとげました。上位27名の中、6席を中国が占め、そのうちトップ5には「CAA」のメンバーが名を連ねました。2018年から2021年はやや振るわない時期がありましたが、2022年より再び上位に上がり、今年のトップ27では中国の選手が8席を占めています。この背景には、ネットやSNSプラットフォームの発展が関係していると思われます。過去の参加者たちがSNSを活用し、IAPLCの

プロモーションを行ったり、ライブ配信を通じて、レイアウトの技術向上に寄与してきました。また、大学リーグの影響も大きく、中国では2014年から大学生水草レイアウトコンテストがこれまでに8回開催されています。このような取り組みがIAPLCへの人材育成に大きく貢献しています。情熱にあふれた新しいレイアウトの勢力が現れ、若年化も顕著です。今年の第9位である施 若非氏も高校生であり、彼が今後さらなる良い成績を収めてくれることを確信しています。

Q 最後にあなたにとって IAPLCとは何か教えてください。

私にとって、IAPLCはアクアリウムコンテストにおける最高の殿堂であり、自分の考えていることを存分に表現するためのプラットフォームです。コンテストの審査基準を通じて、私たちは自然環境を尊重する重要性を理解することができます。そして、多くのIAPLCの優れた作品から学ぶ過程で、自らも成長し、同時に多くの同じ趣味を持つ仲間と出会うことを信じています。



影の面積と線と面を意識しながら構図を組んでいく。



出品作品のトリミング作業の様子。

PROFILE

チー リン

林齐 Qi Lin

年齢 / 27歳
国名 / 中国
職業 / 会社員
アクアリウム歴 / 7年
趣味 / 絵を描く、音楽、映画
過去の受賞歴 /
IAPLC2021 233位



NAギャラリーでは最新の作品が公開された。

IAPLC 2024 AWARD CEREMONY

水草レイアウトの一大イベントが
5年ぶりに新潟で開催！



2024年11月23、24日の日程でIAPLC 2024の関連イベントが
ADA本社のある新潟市で開催されました。世界26の国と地域から
220名の参加があり、歓喜と感動に包まれました。



IAPLC 2024 TOP7が勢ぞろい。
来年の作品にも期待したい。



IAPLC 2024の表彰式となるアワードセレモニーでは世界ランキングTOP7のみなさんが勢ぞろい、華やかな雰囲気の中で表彰が行われました。グランプリのルイス・カルロス・ガララガ氏（ブラジル）は、「天野 尚師匠に忠誠を誓い、ネイチャーアクアリウムが結びつけてくれた世界の仲間たちに感謝し、私の人生は今、緑にあふれています（概略）」と受賞スピーチで天野への尊敬と感謝の気持ちを語りました。会場では水草レイアウトを愛する仲間同士で健闘を讃え合う様子が見られ、IAPLC 2024のクライマックスを飾るに相応しいセレモニーとなりました。2日目はADA本社、天野 邸4m水槽が開放され、作品観賞、新製品紹介、プランツバザール、限定グッズの購入などそれぞれ自由に楽しみながらADAファン同士の交流を深めていたようです。



輝き続ける伝説の巨大ネイチャーアクアリウム

2001年12月、天野 尚によって制作された幅4mの巨大ネイチャーアクアリウム。二度の大きな地震を乗り越え、流木の配置や一部水草の変更はありましたが、基本的な構成は当時のまま、現在まで維持され続けています。天野を知る人なら誰もが憧れる伝説の水景が、今回のIAPLCフェスでひさびさに公開されました。この巨大水景を20年以上維持するためには、日常的な管理はもちろんですが、水槽のシリコン接合部や照明器具などが経年劣化するため、その度に大規模な補修・改修が必要でした。天野が残したこの大いなる遺産は、弟子であるADAスタッフたちの手で守られ、これからも輝き続けます。

ADA LABで会いましょう

Let's go to ADA LAB

2003年7月、ADAはネイチャーアクアリウムを
実際にご覧いただける場所として、新潟の
ADA本社内にNAギャラリーを開設いたしまし
た。しかし、コロナ禍以降、運営上の理由で定
期的な開館が困難となっており、現在は不定期
でのイベント的な開館のみとなっています。こ
の状況を改善するため、2022年4月、東京に
体験型店舗ADA LABを開設。ネイチャーアク
アリウムやパルダリウムの展示だけでなく、

ワークショップや水景クリエイターによるセミ
ナーなど、新しい展開にも力を入れてきました。
また、現在、日本国内では梅田と札幌にも
ADA LABを開設しています。そして、この春、
ADA LAB TOKYOがリニューアルオープンい
たします。これに伴い、ネイチャーアクアリウム
の展示も大幅に拡張する予定です。これから
は、新しいADA LABで、ネイチャーアクアリウ
ムとパルダリウムが皆様をお待ちしています。



ADA LAB TOKYOリニューアルオープン完成イメージ (大丸東京店に2025年春オープン予定)

STAFF CREDIT

Publisher
天野 しのぶ

Art Direction
丸山 悟司

Design
市川 亮／高遠 将史
板橋 広夢

Editor
ADA 編集部

Supervisor
大岩 剛

Photo Supervisor
阿部 正敏

Published by
株式会社 アクアデザインアマノ
<https://www.adana.co.jp>

Printed by
株式会社山田写真製版所



NEXT AQUA JOURNAL

MAR. 2025 vol.353
2025年2月10日(月) 発売予定



アクアジャーナルの情報は一部、
ADAホームページで公開しています。
AQUA DESIGN AMANO CO.,LTD.
©2025 Printed in JAPAN



ADA NATURE AQUARIUM [NEW]
NEW LIGHTING SYSTEM

SOLAR RGB II

次世代型水草育成用高色彩LED照明システム

スマートに自由にアップデート。

ADAの次世代型ライティングシステム「ソーラー RGB II」は、前モデルをさらに進化させ、専用アプリ「ADA CONTROLLER」で多彩なコントロール機能を搭載。アクアリウムやバルダリウム育成に最適な光を簡単に調整でき、ネイチャーアクアリウム、バルダリウム、サンライト、ムーンライト(イメージ)など、環境に合わせた光を選択可能です。光色や光量はカラーピッカーやスライダーで直感的に調整でき、好みに合った設定を保存して繰り返し使用できます。タイマー機能やソフトライティング機能も内蔵され、アップデートされたアプリとの連動でクオリティの高いライティングが実現できます。アクアリウムや植物育成の新たな可能性を広げる、次世代型のライティングシステムをご体感ください。

※タイマー機能を含む各種コントロール機能を利用するためには、

「ADA CONTROLLER」アプリを対応するデバイスなどにインストールする必要があります。

※「ADA CONTROLLER」アプリは、日本国内開発です。



「ADA CONTROLLER」



ADA
aqua design amano

<https://www.adana.co.jp>